ユグル族（裕固族）は、祁連山の北麓、中国甘肅省の肃南裕固族自治県を中心に居住する少数民族で、人口は一万人余を数えるに過ぎない。ユグル族の民族名は「ウイグル」に由来する。漢籍史書では「塞里 Moor」・「錫喇」・「黄頭回回」などとして、ウイグル族の一派として区別されてきた。「ザリーニ・シラー」は「黄色」を意味する。ユグル族はその末裔であり、欧米の文献では「サリ・ウグル」・「シラ・ウグル」などと呼ばれている。ユグル族は仏教を信仰しており、生活様式は中国族やチベット族のそれに近い。

ユグル族の言語状況は、言語と民族の研究者にとってきわめて興味深い事例を呈している。それは、この民族が漢語を含める系統の異なる三つの言語を母語とする集団によって構成されるということである。三つ以上の言語を母語とするもの数は、いずれも全体の三分の一ほど（三千人〜四千人）である。

ユグル族は東部と西部に分けられる。西部は漢語である。それぞれの言語を母語とするものの数は、いずれも全体の三分の一ほど（三千人〜四千人）である。

東部ユグル語と西部ユグル語は、上述のように系統が異なることから、文法も語彙も異なり、互いに通じない。これら的事情の要因は、共通の言語として漢語が使われている。またユグル族には、固有の文字がなく、書記に学べば漢語が用いられる。言語の共通性は、民族の同一体性を決定する文化、宗教、経済、政治等の構成要素を含む。

東部ユグル語は、アイデンティティを保っているのである。

リレー連載► 中国の諸言語[15]

東部ユグル語
東部ユグル語の「謎」と「説」

● 謎
barsa barem le dy:ren
揺めば一揺りに（否定）満たない
talsa ta:la du:ren
放てば 平野に 満ちる

fega:n ma:n nogo:n ewerti wa:n
白い 山羊が 緑色の 角を持っている

mør di:re me:re muna wa:n
道の上に 銀の 鳥がある
ge aw jidan, bu aw jidan
君も 取れ ない 私も 取れ ない

● 説
croq tarage xollıne seın
親戚は 遠くが よい
telen kusunı ofırıne seın
膝（と）水は 近くが よい

xwa:rtıe garsan fıkense
先に出た 耳を
airsa garsan ewer datıwa
後から出た 角が 追い越した
（出豊の誓れ）